

発表論題(和文) 地域に根ざし、世界に誇れる環境人材養成
- 「三重大ブランド」の環境人材養成プログラム-

発表者氏名・所属(和文) 朴 恵淑 (三重大学)
金 玟辰 (三重大学)

発表論題(英文) Environmental Human Resource
based on Region toward the World;
Environmental Education Program for Environmental Human
Resource Development of MIE University Brand

発表者氏名・所属(英文) Prof. Hye-Sook PARK(Mie University)
Hyun-Jin KIM(Mie University)

キーワード(4語) 三重大ブランド、環境人材、
大学の社会的責任(USR)、環境教育コンソーシアム

発表要旨本文

I. 「三重大ブランド」の環境人材養成プログラムの概要

今日、大学における教育の質の充実や世界で活躍し得る人材の養成は、極めて重要な課題である。三重大学においては、平成20年度に「質の高い大学教育推進プログラム」(教育GP)として採択された「三重大ブランドの環境人材養成プログラム(以下、本プログラム)」を実施している。本プログラムは、「環境資格支援教育プログラム」の充実化や「国際環境教育プログラム」の確立、実施を行うことで、優れた**環境人材**を育成することを目指している。具体的には、プログラム修了時に取得可能な学内環境資格を地域だけでなく世界に通用する**三重大ブランド**の環境資格として育て上げ、質の高い環境教育プログラムの構築と環境教育のPDCAシステムを確立することである。本プログラムにおいては、国際的に通用する国際環境人材を養成するために、アジア・太平洋地域の大学(中国・韓国・モンゴル・日本・タイ・インドネシア・オーストラリア・アメリカ、8カ国33大学)により**環境教育コンソーシアム**を構築し、国際環境教育の強化を図っている。また、その成果を客観的に評価・実証することで、持続可能な社会構築に寄与できる**大学の社会的責任(USR)**を果たすことが期待される。三重大学の「三重から世界へ：地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す」という教育目標においては、「感じる力」・「考える力」・「生きる力」・「コミュニケーション力」がみなぎり、地域に根ざし国際的にも活躍できる、実践力を身につけた環境マインドの高い学生を輩出するにつながる。さらに、産官学民連携の環境資格支援教育プログラムの授業を通して得られた環境資格は、三重大ブランドの環境資格として卒業後も地域に通用、貢献できるものである。

II. 「三重大ブランド」の環境人材養成プログラムの平成21年の成果

本プログラムにおける平成21年度成果は、以下の通りである。

- ① 「環境資格支援教育プログラム」において、共通教育および専門教育との連携によって継続的な環境教育を実施した。平成 21 年度の共通教育における「環境資格支援教育プログラム」関連科目への受講生数は 2,659 名(全学部生数(6,200 名)の約 42. 9%)、単位取得者は 2,123 名(全学部生数の約 34. 2%)であり、大勢の学生に大きなインセンティブ(動機づけ)を与え、積極的な受講を促すことができた。さらに、専門教育科目の全学横断的な実施のために、学部を越えて履修可能な環境関連科目を平成 20 年度の 30 科目から平成 21 年度 39 科目へ拡大し、学部間をまたがる相互受講、単位を認める科目の設置によって、文系や理工系を問わず環境資格を獲得できる機会を増やした。
- ② 平成 21 年度は、平成 20 年度の成果を踏まえ、共通教育における環境インターンシップの受け入れ先において、10 の企業(シャープ株式会社、中部電力株式会社など)、行政(三重県など)、団体(商工会議所など)、NPO 法人(三重県地球温暖化防止活動推進センターなど)などに広げた。国際環境インターンシップの受け入れ先において、韓国の 16 の企業(三星、現代、LG など)や団体、NPO 法人(韓国環境教育推進連合など)、国連関連機関(ユネスコ、国連気候変動枠組条約、国連生物多様性条約など)に広げた。
- ③ 「環境資格支援教育プログラム」の推進において、共通教育の科目として「環境内部監査員養成セミナー」を開講(後期・2 単位)し、所定の単位を取得した学生 38 名に対して環境内部監査員の資格を付与した。前年度までの有資格環境内部監査員を合わせ、学生 77 名が

環境内部監査員として登録されている。資格取得者は大学内の ISO 推進において評価過程に参加させることにより、実地体験を積ませることができ、卒業後に環境スペシャリストとして即戦力として活躍できる資質を身につける効果が期待できる。

- ④ 「環境資格支援教育プログラム」において所定の単位(11 単位～12 単位以上)を取得した学生に対し、最高環境責任者(学長)より修了証書の授与を行った。平成 20 年 4 月から大学全体として環境教育に積極的に取り組むことを目的として実施してきた「環境資格支援教育プログラム」の平成 21 年度の修了者は、16 名(4 年生 1 名・2 年生 10 名・1 年生 5 名)となった。
- ⑤ 「国際環境教育プログラム」の推進において、実践外国語能力の向上が重要視されることから、どの学部の学生も参加できる「実践英語特別授業」を毎週木曜日の午後 6 時から 8 時までに行ったことにより、英語による環境問題への基礎取得と国際的な場でコミュニケーション能力の強化など、学生の実践外国語能力の向上を図ることができた。
- ⑥ 国際環境インターンシッププログラムの実施のため、総合大学初のユネスコ・スクールの認証取得、国連気候変動枠組条約会議及び国連生物多様性条約会議へ NGO(非政府組織)教育機関として加盟登録を行った。国際環境インターンシップのモデルとして、COP10 プレ・イベント「アジアユース会議」(2008 年 8 月 2 日～5 日、名古屋市)および「UNEP-TUNZA ユース会議」(2008 年 8 月 17 日～23 日、韓国・大田)において学生 3 名が参加し、その可能性を確認した上で、国連気候変動枠組条約第 15 回締約国会議(COP15; 2009 年 12 月 7 日～18 日、デンマーク・コペンハーゲン)に学生 4 名を派遣し、国際環境インターンシップを行った。国際環境インターンシップ学生 4 名は、エール大学とコペンハーゲン大学が共同開催した「グリーン・キャンパス国際環境ワークショップ」(アメリカ、イギリス、デンマーク、トルコ、中国、日本を含む世界の 14 大学が参加)において、三重大学の 3R 活動やキャンパス・パーク活動、近隣の小学校での環境教育、町屋海岸での清掃活動等についてポスター発表を行った。この「グリーン・キャンパス国際環境ワークショップ」へ参加することにより、世界の諸大学生と共に、現在と未来をつなぐ環境への取り組みについて白熱した討論を行い、その思いをポスターに表現し、国際環境協力のあり方について意見交換を行う過程を通じて、地域や地球環境を守っていくことの意味の分かる重要な機会となった。このような国際的視野に立った環境会議を体験したことにより、今後、地域の若手のリーダーとしてだけでなく、世界のリーダーとしての役割が期待される。
- ⑦ 平成 21 年 10 月 23 日に本学において、国際環境教育ワークショップを開催し、環境教育コンソーシアムの組織・運営(国際交流、国際環境インターンシップ)に関する具体的な枠組みを構築し、大学・企業・行政との協働による実践的環境教育の実現のために第 1 回「アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアムの組織・運営」国際シンポジウムを開催した。韓国の 5 大学(梨花女子大学・東国大学・世宗大学・中央大学・啓明大学)、中国の 2 大学(江蘇大学・南開大学)、モンゴルの 1 大学(ECO-ASIA 大学)、タイの 2 大学(チェンマイ大学・タマサート大学)、インドネシアの 1 大学(ボゴール農科大学)、オーストラリアの 2 大学(タスマニア大学・シドニー大学)、日本の 10 大学(三重大学・宮城教育大学・筑波大学・千葉大学・千葉商科大学・獨協大学・明治大学・名古屋大学・和歌山大学・岡山県立大学)の 23 大学、企業(中部電力株式会社・シャープ株式会社)・行政(文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室、環境省中部地方環境事務所・愛知県)・NPO((社)日本ユネスコ協会連盟)の関係者が参加した。現在、「アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアム」はアメリカを含む 8 カ国 33 大学に拡大している。

発表者プロフィール

朴 恵淑(パク ケイシュク): 韓国梨花女子大学・大学院修了後、筑波大学地球科学研究科で理学博士(地理学・水文学専攻)を取得。筑波大学環境科学研究科文部技官、米国ヒューストン大学地球科学研究科ポストドクトラル・フェロー、三菱化学生命科学研究所特別研究員などを経て、1995年より三重大学に着任。2000年より三重大学人文学部文化学科教授、2007年より学長補佐(環境ISO総括環境責任者)を兼務。【専門分野】気候学・環境地理学・環境教育・環境政策論

金 玟辰(キム ヒョンジン): 韓国梨花女子大学・教育大学院修了後、大阪教育大学教育研究科(国費研究留学生)を経て、筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科を修了(博士(教育学)取得予定)。2009年9月より教育GP研究員(環境教育アドバイザー)として「三重大ブランドの環境人材養成プログラム」を担当している。【専門分野】地理教育・環境教育・持続発展教育(ESD)